

松屋外集
二編

卷十四

15
1398
8



門 45
1398
8

昭和三十六年
高田早苗

扶桑拾遺集卷廿八注釈上

扶桑拾遺集二編



六

卷十四

河野記
祿元子亥六
云勝三三丁少
海乃記
騎の子志一

此乃一國船下行能也
水也無此乃不也
此乃一國船下行能也

蜻蛉日記
枕草紙
紫式部日記
土左日記
更級日記
菅原本今昔物語
古事談
續古事談
室物集

撰集抄

十訓抄

今柳の詞も足き、たゞは
まゝ、かりけり、とを、
教、い、う、ひ、の、詞、さ、し、
お、も、辨、お、ま、を、さ、は、つ、て、今
柳、を、と、れ、づ、ら、は、地、の
こ、さ、な、り、や

○梁塵秘抄は傳傳左子、法位
寺の所、而今柳の詞あり、小大、
道、が、是、柄、

抄 神歌、あ、い、ま、今柳子、を、ま、い

こ、も、り、引、し、ら、

○同書、和氏、新、之、巻、
余、よ、知、是、院、禪、定、殿、下、ノ、仰、也、此、曲
ハ、公、私、之、分、天、祝、之、前、ハ、必、舞、ト、イ、ヒ、樂
ト、イ、ヒ、先、奏、之、後、ニ、ソ、ノ、何、ノ、曲、ヲ、モ、用、ヒ
ラ、シ、侍、レ、サ、レ、バ、誠、ニ、目、出、キ、曲、ニ、テ、侍、ル
ナ、リ、今、ハ、今、事、モ、名、ニ、ヨ、リ、テ、其、徳、ヲ、著
ス、事、ナ、レ、バ、尤、其、謂、ア、リ、テ、オ、ボ、エ、侍、リ、

ガレバ祝^{イハヒ}今^{イマ}様^{サマ}ニモ
 鐘^{カネ}調^{テウ}ニ^ニ君^{キミ}ガヨ^ヨヒ^ヒハ^ハ方^{カタ}岸^キ樂^{ラク}
 トイ^{トイ}ハ^ハリ^リ云^{クニ}

○教訓抄上巻、高麗曲物語、胡蝶
 のあま、古^コノ物^{モノ}語^ゴ申^{マシ}スル^ルハ、今^{イマ}の武^ブ峰^{ホウ}ノ
 増^{マシ}賀^カ聖^{セイ}人^{ジン}臨^{リン}終^{シュウ}ノトキ^{トキ}ニ^ニ病^{ヤマト}
 筵^{シマ}コ^コフ^フシ^シ筵^{シマ}ガ^ガ方^{カタ}キ^キ井^イ筵^{シマ}テ^テア^アク^クリ^リト^ト云^{クニ}
 物^{モノ}ヲ^ヲコ^コヒ^ヒ筵^{シマ}ケ^ケレ^レバ^バ弟^{ケイ}子^シヤ^ヤモ^モ心^{ココロ}ズ^ズシ^シテ^テ
 物^{モノ}ノ^ノ狂^{キヤウ}ヒ^ヒ筵^{シマ}ニ^ニヤ^ヤト^トア^アシ^シ思^{オモ}ヒ^ヒケ^ケレ^レド^ドモ
 弟^{ケイ}子^シト^トリ^リヨ^ヨセ^セネ^ネリ^リケ^ケレ^レバ^バセ^セオ^オカ^カニ^ニテ^テ筵^{シマ}
 テ^テ

コテフク

リノ名ヒテゾ人毎宿アリケル云々

○續教訓抄廿二卷 廿八子然ル間

天井ノ上三人拍子ヲ打コタリ先

ツ三度次ニ二度其後程アリ女房

ノ聲ヲシモテ和テ嚴シ歌テ云久

耶一代失而波初中後与太

礼波世耶已上由不教逸先

除雜信復已上念心寂靜而住

已上四句
指音唱之ヲ



ク深クシハ后宮ハ御從者ヲカキ控寄サセ依テ秋

月ノ樂ヲヒカセ依テ侍從ハ琴ヲハキ彈ケリ大拍腰

ヨリ笛ヲ取出テ調ニ途カ名是ヲ吹奏具

後故郷ノ荒行悲サラス今様ニ造リテ歌詠ス

古キ都ヲ来テ見テ津茅ガ原ト成

ニケル月ノ光ハ公ニナリテ秋風ノミゾ身ニ入

ト三返歌ヒ詠ケレバ宮ヲ始ニ進セテ伊所

中カキ候詠ケル女房達折カラテ哀カキ覺テ

皆袖ラグ 後リケル

○同書廿二卷 左ノ土肥焼止舞 身ノあり

伊藤入道三百餘騎ヲ押寄テ土肥ノ
在家一々ニ追捕シ此ノ後ニ火ヲ放テ一宇
ニ残サズ焼掃ス之ノ同ク是ヲ見ル真平
佐殿ノ如新ニテ一時台舞ヲシシアリケル
土肥ニ三人光アリ一六八幡大菩薩
我君ヲ守リ給フ和光ノ光ト覺ル
アリ等ニハ我君平家ヲ打込シ一天
四海ヲ照シ給フ光ナリ等ニハ真平

ヨリ婦人君之志アル人々御恩ニ
ヨリテ子孫繁昌先也嬉シヤ水
鳴ハ瀧ノ水悦用ケテ照シタル肥
ノ光ノ輝サヨ我屋ハ何處モ燒バヤケ
居タセ世ニ立タハハハ肥ノ杉山廣クハ
緑柳ヨモ書ニテ新カクハ出ラシキ
更ニ歎ケララジ不如居ヲ始テ万歳
學我号モ共ニ万歳學

トゾ舞アリケル人々アラセオシキ祝事ニ
イヒカト

トミハゲテ勇ケルニミキ

○同廿六卷 十二 御所侍酒盛のあまゝ入道

燒上奉リケル夜ハ波最々南ニタリテ
舞躍ル者アリ

嬉シヤ水鳴ハ瀧ノ水

ト云拍子ヲ出シテ二十人が舞シテ拍子ヲ
トリ喚叫ト笑ト笑トシケリ



○同廿四卷 右 法住寺 城部合辭のありし
 知康ハ軍ノ行年 身書 大野ヲハ著ス 鏡
 計ヲ著ス 天玉ノ鏡ヲ繪ニ書テ 書ト
 左ノ年ニ突鋒 オカサ 右ノ年ニ金剛鏡ヲ撰テ
 法住寺殿ノ四面ノ鏡懸ノ上ヲ東南西北
 ニ流行テ時々ハ
 カレシヤ水
 上ヤノ舞ヲトシケレバ 見人知康ハ別ノ風

情ナシヨクモ天狗ノ群ニシテ申ケリ云ハ

○同書廿九卷 右 重衡 酒宴のありし 重衡
 ハ逆最ノ身ニテ 神別ニモ 佛陀ニモ 奉テ 敬
 敬スレバ 其助音 仁ルモ 憐カリ 併道成 成
 事アラバ サモ有ナシト 宣ケバ 女承テ 十方件
 中ニ以テ 四方ノ為スレ 九品 違 惡 間 離 下
 品 應 定 離 十 惡 上 方 猶 引 擽 甚 於
 疾 同 之 披 雲 霧 離 一 念 方 必 感 應

嘯^{カク}之^シ巨^ク海^ノ之^シ納^ス露^ノト云^{ハク}朗^ク詠^シス
 極^ク學^ブ欣^ムハ人^ノハ皆^ク弥^レ陀^ノ名^ヲ號^シ唱^スフ
 阿^ノ弥^ト陀^ノ佛^ノ々々々々楠^ノ阿^ノ弥^ト陀^ノ佛^ノ
 阿^ノ弥^ト陀^ノ佛^ノ々々々々大悲^ノ弥^レ陀^ノ佛^ノ
 ト云^{ハク}今^ノ様^ニ回^シ且^ニ返^シクヒシ^ト中^ノ行^ノ助^ノ音^ノ
 シ^テ信^ズケル^{コト}ハ學^ニ三^返彈^シ信^テ同^クハ一^聲
 ト^テ善^ク信^ズハ女^ノ承^ハハツ^ク
 一^ノ樹^ノ蔭^ノ宿^リ一^ノ河^ノ流^ラ汲^ム人^モ先^ニ世^ノ
 一^ノ樹^ノ蔭^ノ宿^リ一^ノ河^ノ流^ラ汲^ム人^モ先^ニ世^ノ

一^ノ樹^ノ蔭^ノ宿^リ一^ノ河^ノ流^ラ汲^ム人^モ先^ニ世^ノ
 ト云^{ハク}契^ノ白^ノ栴^ノ子^ヲ一時^カス一^ノ澄^シム^ル先^ニ
 カ^ク云^フ

○手冢物語巻 右 妓王の 案 其比京

中三聞エタル白拍子ノ上手、妓王妓女トテ
オトヒアリトゲト云白拍子が娘ト云ト柳
我朝之白拍子ノ始リ先事ニ首鳥羽院ノ
伊半三嶋ノ千歳、和歌前、後等二人が舞
出シテリケル也始ハ水干ニ 舞 白拍子 白 舞
卷ラサイテ舞ケルバ男舞ト云申ケルル
中此ヨリ鳥帽子カクツケラシテ水干ガリ

用アリサテコソ白拍子トハ名付ケシ、京
中ノ白拍子共、妓王が舞ノ日出度様ヲ
聞テウラヤム者モアリ、猜者モ有リ、
者トモハ、子目出ノ妓王御前ノ女ヤ同遊
女ト云バ、誰モ皆アノ様ダコソアリタケシ、
何様ニモ妓ト云文字ヲ名付テ、能ハ目出
度、御覧イサヤ我等モ付テ、
或ハ妓一妓ニト付、或ハ妓福妓徳ト付、

者モアリケリソ子ム者トモハ何修名ヨリ文^モ
字ニハ可依^シ幸^ハ先^ニ世ノ生^シ修^テコソ有^ル
トテ修^ハ又^モ者^モ多^クカリケリ^テ節^テ三年ト云^フ
又白拍子ノ上手一人出来^ルカ賀^ノ国ノ
者也名^ツ心^ハ併^ト申^{ケル}年十六ト聞^ク
京中ノ上下是^ヲ見^テ昔^{ヨリ}白^ノ拍^子
ハ見^シカ共^カハ舞^ハノ上手ハ未^ダ見^トテ世^ノ人
モテナ^ク事^ハ不^レ斜^ニアル時^ハ併^テ御^前申^{ケル}ハ

我^レ天下^ニモソク^クバト云^フトモ^モ當時^ノ目^ノ出^タマ^シ
栄^カニサセ^テ諸^ノ人^ノ手^ノ家^ノ大^ノ政^ノ入^リ道^ノ殿^ニ入^リシ^テ
幸^フコソホイナケ^シ遊^ビ物^ノ留^ル何^カ可^ク推^ス
参^ルコト見^{ント}テ^ハ時^ハ由^リハ修^シ殿^ニ参^ル
人^ノ御^前参^リテ^ハ當^ノ府^ノ都^ノ工^ノ候^ハ併^テ御^前
カ^ハ考^テ候^ト申^ケレ^バ入^リ道^ノ相^ノ国^ノ大^ニ怒^リ
何^レ修^シ左^ノ様^ノ遊^ビ者^ハ人^ノ召^シテ^ハコソ参^ルモノ
ナ^レサウナ^ク推^ス参^ル様^ヤ見^ル其^レ上^ノ神^ト

イへ併チトテともくへギ妓王ワが有ニズル所ハ叶タシキ
ゾトウク飛出キヨトゾ宣ケル併御前ハスゲ
ナク云レ奉テ既ニ出シトシケルハ妓王入道
殿ニ申ケル遊者ノ推考ハ常ノ習テコソ
オグラへ其上ニ年モ特ニ解キラサグラフナルガ
偶思立テ希テ候フスゲナク仰ラシテ
返サセ給ハンツ不便ナレイカ計度ノ片
腹痛モ候ラシ我ガ意ニ通レバ人ノ上トモ

不レ覺テ終ニ舞ヲ御覽ジ歌ヲマソ聞召サス
トモ唯ク理ヲマデテ召返ス天御對面計サ
ブラヒニ返サセ給ハル難有御情デコソ
候ハンズレト申ケル入道相目イテクサレバ
ワグゼカ饒ニイフ事ナレト對面シテ返サン
トテ御使シテ召レシキ併御前ハスゲ
ナクイハシ奉テ事ニ乘テ既ニ出シトシケルガ
併テ歸考ナリ入道體ヲ出シ對面シ候ス

イカニ侍^{ホトケ}今日ノ見参ハ有^レシカリッレトモ
妓王ガ何ト思^{オモ}御覽^{ラシ}餘^アリト申^{マシ}進^スル間
加^カ掬^クト見^ミ参^マハシ^ス見^ミ参^マスル上^ウテハ如何^ニテ
カ多^ククモキカテ可^ク有^ル也^ナ先^マ今^{イマ}様^{サマ}一ツク
ガシト^シ歎^ナハハ侍^ウ御^ノ前^マに^ニ立^タリ候^マフトテ今^{イマ}
様^{サマ}一ツク^ク歎^ナフ也^ナ

君^{キミ}ヲ始^{ハジ}テ見^ミル時^{トキ}ハ千^チ代^ノモ経^ヘヌ也^ナ姫
小^コ松^ノ御^ノ所^ノ池^ノ花^ノ菟^ノ園^ノ之^ノ節^ノコソ^ノ也^ナ

井^イテ^テ遊^ブグ^シ也^ナ
ト^ト推^カ進^シ々々^ニ三^ニ返^ス歌^ノヒス^ニシ^タリ^シレバ^見
聞^ク人^ノ々^ニ皆^ハ耳^ヲ目^ヲ驚^カス入^リ道^ノモ面^ヲ
キ事^ノニ思^ヒ給^テサ^ラワ^グセ^ハ今^{イマ}様^{サマ}上^ノ手^ニニ^テ
有^ル也^ナヤ此^ノ迄^ノ舞^ヲモ^モ定^メテ^ヨカラ^シ一^ニ番^ニ
見^ルゾヤ^ヤ鼓^ヲ打^テセ^トテ召^シケ^リ打^テ一^ニ番^ニ
舞^ヲケ^リケ^リイ^カニ^テ妓^ヲ王^ノ其^ノ後^ハ何^ノ事^カ
見^ル併^ニ御^ノ所^ノが^ノ餘^ニシ^レド^ク也^ナ見^ルニ^シテ^ハ今^{イマ}

様子もウキと舞ハナンドシモ舞フテ、
佛
ナグサメコトゾ宣ヒケ心岐王参ル程デハ、
免モ齋入道殿ノ仰ラハ有クモシキ物ヲ
ト思ヒ院ル、涙ヲ擗フツ、今様一ツツ歌フ
ル。

佛モ能ハ凡夫ナリ我身モ終ニ佛ト
ナリ何レモ佛性具セル身ナリ隔ルミ
コト悲シクシ

○同書六巻七段 徑峯の寺よ六波羅の前ニ

齋人ナラニ三十人計ガ聲シテ、
響シヤ水鳴ハ滝ノ水、
ト云指子ヲ出シテ、おどろり、
嗤ト笑フ声
シタリニ、

○同巻 廿七段 満園聲の寺よ 拙家大納言

資賢卿、信濃国ヨリ帰洛トゾ聞エシ
同廿八段、音院殿御院参ス、拙家大納言

納言資賢卿モ其日同ジウ院参セラ
法皇殿覽有テ如何ヤ如何此比習
父^ヒ勸^ル任^ル所^ニテ^ハ部^ト曲^ト本^モ今^ハ迄^テ跡^ト
於アラジトコソ思召セ共先^ト今^ハ様^ト有^ルガ
ト仰^ルセバ大^ニ納^言言^ハ初^メ取^リテ

信濃ニ有^ル瓦木曾路川

ト云^フ今^ハ様^ト是^レ正^ニトウ見^ル聞^クレ^ルナ

信濃^ニ有^ル木曾路川

ト叙^ス今^ハ様^ト是^レ取^リテ高^ク名^ヲシ^テ云^フ

○長門本平家物也、
清水寺法印の觀音坊、
坊力と坊とを以て、
興福寺の本寺なる也、
清水寺法印の觀音坊、
坊力と坊とを以て、
興福寺の本寺なる也、
清水寺法印の觀音坊、
坊力と坊とを以て、
興福寺の本寺なる也、

思ひ意の玉より、
おぼえたるは、
とて、
或は三枚、
荒目の鏡、
やえ茅の葉、
走らぐらえさん、
の歌も切、

いさよしや水たしと滝の水

ともやうして興福寺の衰後の中へ迄

いさよしや

~~一~~

○同書卷丹波少尉被^レ召返すまゝ下向の時

大隅正八幡宮とある所あり、乳望成就

しつとりの乳もとげんとを正宮を系説

しつとりの乳もとげんとを正宮を系説

鹿見嶋^{カミシマ} 彦^{ヒコ}の湊^{ミナト}木入津^{キイリツ}向嶋^{ムカシマ}も

かゝるそ、姥^{オバ}脇^{ワキ}ハ幡^{ハタ}崎^{サキ}まはまに

そよごうとあがう、室^{ムロ}中の馬^{ウマ}持^{モチ}執^{シツ}

事^{コト}法^{ホウ}通^{トウ}とや、う許^{コト}に岩^{イハ}もはして、所

湯^ユ仕^シ出^デてあすせまも、やまをい

片^{カタ}岩^{イハ}ちと、なるその坊^{ボウ}正^{テイ}宮^{ミヤ}の所^{トコロ}炭^{ツグ}

系^{ケイ}のまのり、と、まよ、念^{ネン}誦^{ジュ}おま、折^{セツ}岸^キ

月の形^{ツキノカタ}なり、いさよ、宮^{ミヤ}中^{ナカ}に、流^{リウ}と、り、珠^{シュ}

の面白^{オモシロシ}かり、けり、皇^{ミコ}明^{アカリ}寺^テ法^{ホウ}系^{ケイ}に、後

忠房阿闍梨と中座竟の歌致の
上よあしはるうとせかのお今柳まぎ
うははるひる

月七か下月日等かなうなるこの
たもぶこよのう新の味もるらん

とがしえししこぞうはまけるえし
○同書七卷持察使大納言資賢被遣
洛中より内侍取の神樂の爲子賢

賢卿召込も給ひ神懸野しん
たがしはるひるかたえしとこの柳
入洛の夜院御所まあるらへは
りうしの初をえしし御のあしはるま
信濃よあんなる市名路町屋ま
只のう海りまし
とらあかをちえししとちあまを
信濃よあんなる市名路町

とくしむいしむりなむとぶいさきく敵感あり
けるとうやまけいふしちやうらりえいめ
とふもえ院の法智の教ある所のさいどん
えんかけしはとびえ

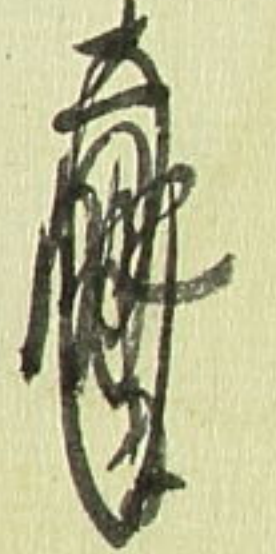
○同書九巻寶具に上巻のあまの古き都の
あまのけいさも大好今柳よはうりてをい
たはとける

あまの都 坤まきえいさむあまの原

とあまけいさく日のかげの隈ちうて秋
風のそを身入る

とあーくしく二に及しはとびえいさむ

○同書十巻兵衛佐々木は房国を治るを
とま佐々木肥のかげをいとりあふまき
ましけいさくあまのえいさむ伊東入道
土肥のかげをいさくわい實平の家を
並捕し焼くはいけい實平山の峰を

送子見下カコしト 

去肥子ト三光ミツヒカリあり第一の光ヒカリいハ幡大
是菩薩の肩をさりけり光次ヒカリの光
は君の所ちんぢやありて一夫四海
をかやういふは光なり
次ヒカリの光ハ實平君の所恩を放
光ヒカリいふ光なり
とぞ解ヒカリかなぞしけり人皆光いなり

栴ヒカリ叶ヒカリよとありて其つ子のもも歌あり
解ヒカリかなぞしけり今柳の歌よりいふは

○同書十三卷、去改入る處をのまよ、其下
六条の南子ありて、
舞踊ヒカリりのをけり

娘ヒカリや水

とりふゆ子をとりてあめいよびをせ
けりてとて笑ヒカリちてけり

○同書、七、卷、本之位中、鐫倉下向の条
よ千壽、さうらがし、十^{テラ}恵なり、といふ
非、ざん、より、朗詠を、回、おへん、と

極樂新いん、ん、ん、ん

より、今、秋、を、い、お、さ、し、く、酒、を取、
い、め、中、に、い、お、ち、と、さ、し、け、ら、ぬ、
け、女、依、り、い、お、ち、と、さ、し、け、ら、ぬ、
思、人、づ、つ、さ、ら、は、け、女、琴、を、は、け

け、い、さ、し、さ、ら、は、け、女、琴、を、は、け
お、ち、と、さ、し、け、ら、ぬ、
い、お、ち、と、さ、し、け、ら、ぬ、
女

一、ぢ、あ、の、か、げ、よ、や、と、な、

より、白、梅、子、さ、か、ぎ、つ、り、中、お、も、り、た、く
ら、い、と、い、お、ち、と、さ、し、け、ら、ぬ、
を、二、三、べ、ん、ち、か、ら、ん、な、り、

○義経記巻^七 判官^判を^右た^右り^右なる^右なり
のま^ま子^子静^静を^右知^知ら^右ぬ^右く^右お^おの^のり^りに^には^はせ^せ
あ^あら^らん^ん白^白拍^拍子^子の^のと^とあ^あら^らん^んま^まを^をけ^けせ^せた^たる^る曲^曲
や^やい^いけ^けら^らん^んに^にお^おも^もは^はる^るま^まき^きく^く人^人涙^涙を

流^流し^し神^神を^をな^なぶ^ぶあ^あん^んち^ちの^のわ^わら^らひ^ひの^のま^まか^かく^くぞ
う^うい^いは^はる^る

あり^{あり}の^のゆ^ゆさ^さび^びの^のわ^わら^らま^まは^はる^るあ^あら^らま^まの^の流^流に
あ^あら^らま^まは^はお^おの^のぞ^ぞら^らへ^へる^る一^一面^面を^をい^いら^ら
の^のせ^せら^らる^るい^いは^はる^るあ^あら^らま^まは^はる^るあ^あら^らま^まは^はる^る
あ^あら^らま^まの^のこ^この^のあ^あら^らま^まの^のこ^この^のあ^あら^らま^ま
あ^あら^らま^まの^のあ^あら^らま^まの^のあ^あら^らま^まの^のあ^あら^らま^ま
と^と流^流の^のあ^あら^らま^まは^はる^るあ^あら^らま^まは^はる^るあ^あら^らま^まは^はる^るあ^あら^らま^まは^はる^る伏^伏

元亨云々

○同書 三 吉野法師判名も通う子なる

母のあまみ 舟度あいぬもつる 鑑コト正キなる
たふ 臥木子 姑ニなりん 大衆オホシユを 呼ヨて かけるい
情ナガある 大衆オホシユあいに 西ニへ くる くる 舟
度タあいのらん 拍子ヒタツ見よと ちや けり 大衆オホシユなら せよ
あつ ちや 舟フネあり 片足ヒタツちや や や と ちや せよ
まよと や 舟フネあり ちや の 舟フネも ちや せよ 万歳
中ナカぎ

歳樂とをばや けり 舟度フネあり 舟
ちや 舟フネあひ 大衆オホシユも ちや けり 舟度フネあり
舟フネあり ちや 舟フネあり 舟度フネあり 舟
ちや 舟フネあり

舟フネの 後ノチも 舟フネあり 舟度フネあり 舟
舟フネあり 舟フネあり 舟度フネあり 舟
舟フネあり 舟フネあり 舟度フネあり 舟
舟フネあり 舟フネあり 舟度フネあり 舟

とまきり返しし〜わかつぶたさるるまきり
兼然の申〜まきりのやうそまきり
ぞしりたるまきり

○同書二卷 十一 静者宮八幡入奉詣の
のまよふを人のさんて〜酒宴
と〜いづくほよなまはるる祐海が女
房今候を〜しはるる次が妻女し
備馬車をも〜いはるる御のせんど珠

かぬ中ちよどもちせんとりよ白拍子まきり
〜はるる備馬車其駒しまよあしよぬ
とよぶなうらまぶ〜いとおまきり
春の物のおぼろの〜雨ありて
さし世るまづのなり〜まよふ
け まよふ 御の まよふ 子 まよふ 命とけさ
なり
おまきり〜あまきり〜別 まよふ の拍子まきり

しよしよははぢやとていへ

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

~~まぢや~~ ^{まぢや} まぢやうらぶぢ

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

あまぢやうらぶぢ

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ ~~まぢや~~ ^{まぢや}

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

うらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

あまぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

まぢや

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

まぢやうらぶぢのまゝいふまゝいふまゝ

○同書七卷 四十三 五江の津より オヒガ 笈探 ウツ せう
甲の多よ ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
う ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
月 ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
く ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
さ ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
し ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
とう ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう

一本 五江の津より オヒガ 笈探 ウツ せう
う ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
く ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
さ ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
し ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
とう ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう

讀解

○同書八卷 四十四 五江の津より オヒガ 笈探 ウツ せう
う ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
く ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
さ ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
し ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう
とう ウツ せう ウツ せう ウツ せう ウツ せう

板のどよ^{カキ}とけるが^ヤ雑ちや^{トダラ}ぬ原^トも^カ昔^カの
舟^{フネ}の奴^{ヤク}存^ゾる物^{モノ}も^モち^シ若^{ワカ}ら^ハし^シ時^{トキ}は^ハ
山^{ヤマ}も^モぐ^グある^{アル}か^カら^ラま^マた^タし^シの^ノま^マぐ^グん^ンの^ノ方^{カタ}も^モ
ある^{アル}ま^マも^モ武^ブ家^ケの^ノた^タも^モ恩^{オン}信^{シン}の^ノ名^ナも^モと^トり^リま^マ
一^{ヒト}手^テ舞^マへ^ヘ若^{ワカ}ま^マの^ノ方^{カタ}の^ノま^マも^モ奴^{ヤク}存^ゾる^ルま^マえ^エ
と^トし^シ鈴木^{スズキ}兄^{ケイ}弟^{テイ}子^シも^モや^ヤせ^セと^トせ^セ

い^イま^マも^モや^ヤ流^{リウ}の^ノ水^{ミヅ}の^ノい^イ照^テも^モた^タと^トぐ^グま^マ
た^タり^リあ^アづ^ヅま^マの^ノ奴^{ヤク}存^ゾる^ルの^ノ船^{フネ}も^モ首^{コビ}も^モら^ラ

と^トも^モ子^シ夜^ヨ河^カも^モま^マり^リた^タが^ガし^シは^ハる^ル
う^ウれ

と^トも^モあ^アら^ラう^ウけ^ケる^ルま^マし

一^{ヒト}本^{ポン}も^モ三^{サン}ツ^ツも^モ三^{サン}ツ^ツづ^ヅも^モ
は^ハり^リえ^エい^イこ^コい^イひ^ヒえ^エい^イこ^コい^イひ^ヒえ^エ
は^ハり^リま^マら^ラは^ハり^リま^マら^ラは^ハり^リま^マら^ラ
さ^サげ^ゲ流^{リウ}し^シけ^ケる^ルま^マら^ラ

お守りもぐぞおん...
つとむりもぐぞおん...

逢来山... 千秋万代

て木の枝... 鶴の...

が病とらぬ... 子に任せ

君万代... お守りもぐぞおん

お守りもぐぞおん

とあ... 三六ん...

お守りもぐぞおん

けがらひのちよとまげりしあし
奉ぐ

○大子記廿三卷 奉考本十八幡所託宣の
考子直冬朝臣許否凡慮及ブ
魂マラズハ情御定前三六御
神學ヲ奉シ託宣ノ詔ニ附テ軍ノ
吉色ヲ知ベシトテ極ノ奉幣ヲ奉
リ、敷、敷子ヲ薦テ即神ノ器ヲハ
行レケル社人ノオチ敷ノ声ハキ子ガ袖

スル鏡ノ音、深行月ニ神サヒテ、同
信心ヲ傾ケケリ、託宣ノ神子啓白
ノ句、言、巧、之、ミ、ヲ、建、子、ハ、極、々、ノ、事
共ヲ申ケル

カラケ子ノ親ヲ守リノ神ナレハ
コノ手向ラハ受レ物ナハ

上一首ノ神歌ヲクリ返シクニ三
遍誦シテ、且後序神ハアカラセ、詠
ケリ云

栢 金勝院 西摩院 本主親ヲ
守り人の七字方ヤシラ守ル上作
まのくし 奉考するも廿七卷
一 村自伊勢上宝剣事の名子
目録 鑄造ヒシ鑄ヨカレト下六村ノ
次ニ著テ一千ノ神達ヲ引識子
枝ニ識テ神歌ヲ歌ヒケレバ云こと
ヲ識テ神歌ヲ歌ヒケレバ云こと
非歌は阿波礼阿那於民志呂の
称言をも指せるなり

○甲陽軍鑑九上卷 四 大門口合戦

あまふその比岩村甲お富のかみちや
女でーの女を四むくおきおとこし
ゆがう

さてしもの村上や、瑞の志重 襷子
て鑓をこころしくさへうしよ甲おとこ
こむあいかいおとこ
とくし思ふ 瑞村上殿 甲州と

とす中、天文七年は仲晴信の父信虎

公を駿河へ遣りし、おあふもいさしりし

時の中も後晴信の度、晴ふより

如、いよたけし

あ、今板の、野なぶ

○栄花物語、月宴、サニ又、姫宮ハあふいさしりし

おあふいさあふやうよまか、おはたふか

琴をいよもの、うしき、ふらび、あふいさしりし

あふいさしりし、あふいさしりし、あふいさしりし

所、息所、サニ又、あふいさしりし

つとも、あふいさしりし、あふいさしりし

あふいさしりし、あふいさしりし

あふいさしりし、あふいさしりし

是より天文七年は仲晴信の父信虎
公を駿河へ遣りしおのゝもいそし
めの子も後晴信の度い晴るふより
如也、いよたけし

按、あきま今板の駿野なるべし

○栄花物語、月宴

廿三 二姫當ハあぶいそりく

あきまはあきまやうまをか、あはたはあはた
琴をいよもの、うしむいよついでく、うまや
あきまらるる、あきたま、あきまはあきまは、
所息跡、二穴のル、あきま、あきま、あきま
あきま、あきま、あきま、あきま、あきま、
あきま、あきま、あきま、あきま、あきま、
あきま、あきま、あきま、あきま、あきま、

見らけらるるもさうしちりげと聲をあげ
てどまのの併遊のたのみの聲の
般若の心経をいけり

平小山田與清稿

○讀世継二卷

丁左 かりぬよ今抄も 景

梓子 景石を百うきくおきこころふくきり

ぞく一信ひそ帯をよとあそ

釈迦のみおろしとあそ

よよおやがおと一帯を百うきくおきこころふくきり

うきこころふくきり一帯を百うきくおきこころふくきり

の面よは大方のおとこの所子い右大臣のあそ

よよおやがおと一帯を百うきくおきこころふくきり

窓の片まつる流きけり
つれなき子かよ
とみまええいふも
何軒のいと
うまふまのし
のまふは

ばいんのお
まふは

より今様を
おろし
をれ
み
と
目
所

あこあきふなき

とうしなよまの存院さうま

せいのの野

まもんくこまろくたごしらうらうら
はごよめぬえ

○慈鎮南極三皇也卷 五十三 今柳

花

春のよめぬえ

○晴映日記中巻

解環系中五

子空

まろまろ日らしとほそく

海のおもろきうけりてあまの月お

吹く海のおもろきうけりてあまの月お

吹く海のおもろきうけりてあまの月お

細やかえ

おもやせ

とりよれもこういじふとせいじん

おゆらえ

抄 夫は去左日記の舟歌の巻
なるづゝとてんるすうとて奉

○枕草紙

春曙お幸四
巻廿一丁右 物のあはれ

そとせなるなるものし 既よきかきん
しぞすきき ともや あふらぐこゝろ
いむぢどくちくるまともあまゆか
しよこそくすいそいそはう
はうちしや 舟などけふ

いとよもけてあま

よきは 簾との 舟ん 若原の介と舟ん
あふらほごより

あまのまいよあゆみ

男山の嶺のともみち 葉とを名はら
やまごころあつらふ

とくしをもまがうしんりくくまはたあひ
かすみあふらふらふいと



○同書 春晴の十巻 竹敷くまづるの段よ

女よのあふし折敷のやしなる物と筆のえ
いと多く走りて歌をうゝひあき依のや
よるえそ思なるんさちくうしろざらあり
はしのなるものあふんをうゝとるいど
勢ふをいと聲くうゝふ聲ぞんし

ほとぎんよあまよかやつよあも
ぞとほは田よら

とうふまのそん

拙は田強歌を女よの
平な浅折あめさすの
筆を著る也を廻て

よとてく初うふ

○紫式部日記 傍注幸上 子筆 笛
の音などいまだ
たちの刀祢あそむ
みはるそひりか
又同廿下

しと拵カサんドカサるあふ聲カサしとあつし
しあをカサかカサしとるあ

池カサのうカサきカサ岸カサ

とうカサらカサいカサなカサまカサ吹カサあカサはカサとカサうカサ曉カサ
がカサのカサ月カサのカサけカサもカサいカサさカサつカサぞカサんカサあカサをカサなカサ
るカサえカサ

舟カサの内カサもカサやカサ老カサをカサかカサこカサつ
らカサんとカサ連カサ歌カサをカサしカサらカサうカサとカサす
はカサけカサをカサ往カサ福カサ文カサ氏カサアカサうカサこカサん

まカサとカサとカサ溪カサ和カサのカサ式カサもカサとカサ階カサもカサ
うカサちカサもカサ池カサのカサしカサもカサさカサもカサとカサうカサこカサん
何カサのカサうカサもカサ

○土左カサ口カサ記カサ正月九日カサのカサあカサまカサ舟カサ子カサ拵カサ取カサ
はカサ舟カサ取カサうカサしカサくカサなカサるカサもカサ思カサふカサばカサあカサ

あはれは

春の野もをど 咲きば泣く器
もよみをかきみく 摘んぶる菜を親
や進食するん 姑や飢るんか
昨夜の菜も 偽るとも 賄ふ
きしる 銭も 事か ことば
同世のあま 恨も ちかぶる ぬらで
さびあけ ぶらよ けういん けい

あはれはあり、そせがくよあな唄
なほま 母の 方は なるや
母ありと 思つば うつや

とくあしを せむる

母右の二歌は 舟歌を 今柳よ 春
ど 撥がうらそ 舞つ 今柳より 名も
今時柳 新柳の 義を 申比 今柳
と名分する 一種の 歌由を 限る

新^ニ奇^キの歌^カ喰^キも^カ死^シしとん^ン平

く^クあ^アし^シの^ノあ^アめ^メる^ルさ^サあ^アら^ラと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

蜻^{トビ}蛉^エ日記^ニ卷^マ中^ノ源^ノ氏^ノ物^ノ語^ノ後^ノ紫^ノ式^ノ

部^ノ日記^ノな^ニど^ノの^ノよ^ノま^ノく^クつ^ツま^マり^リと^ト

春^{ハル}曙^{トキ}の^ノあ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

あ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

あ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

あ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

女^メの^ノ体^ノに^ニ成^ニ給^ル事^ト疑^ハふ^{コト}

○更^シ級^ク日記^ニ 厨^ク書^シ書^キ後^ノ 下^ノ忌^ノ概^ノ山^ノと^トら^ラふ^{コト}曰^ハ也^{ナリ}

日^ヒの^ノあ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

し^シの^ノあ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

し^シの^ノあ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

し^シの^ノあ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

し^シの^ノあ^アら^ラま^マり^リと^トも^モ舟^{フネ}歌^カハ

なるよ、あきむニギハヤヒ人ヒコりくヒコなりヒコとヒコのヒコなり
お十イナヂをイナヂかりイナヂたるイナヂひイナヂくイナヂ二十イナヂをイナヂりイナヂたるイナヂ十
四イナヂをイナヂりイナヂたるイナヂとイナヂありイナヂ菴イナヂのイナヂ行イナヂもイナヂ唐イナヂ笠イナヂをイナヂ
さイナヂ、さイナヂにイナヂきイナヂりイナヂ、さイナヂのイナヂしイナヂもイナヂよイナヂもイナヂのイナヂしイナヂ
るイナヂもイナヂ昔イナヂうイナヂ流イナヂじイナヂといイナヂむイナヂ先イナヂのイナヂ孫イナヂとイナヂもイナヂ替イナヂ
いとイナヂぢイナヂぐイナヂひイナヂむイナヂいとイナヂよイナヂかイナヂりイナヂくイナヂ父イナヂ白イナヂくイナヂ
きイナヂくイナヂぢイナヂたるイナヂえイナヂ、おイナヂうイナヂ、ありイナヂぬイナヂすイナヂ下イナヂ位イナヂ
たイナヂどイナヂもイナヂ、さイナヂぬイナヂぐイナヂ、たイナヂどイナヂくイナヂ、ありイナヂもイナヂかイナヂるイナヂよイナヂ

こゝろイナヂづイナヂてイナヂ似イナヂるイナヂものイナヂありイナヂ、空イナヂよイナヂはイナヂみイナヂれイナヂが
アイナヂもイナヂ也イナヂでイナヂ、くイナヂくイナヂくイナヂ、さイナヂうイナヂよイナヂんイナヂくイナヂりイナヂ
ドイナヂ、ありイナヂもイナヂかイナヂりイナヂてイナヂ、あイナヂらイナヂくイナヂるイナヂ人イナヂもイナヂもイナヂ
きイナヂめイナヂらイナヂぬイナヂ、西イナヂがイナヂあイナヂのイナヂあイナヂきイナヂぢイナヂはイナヂえイナヂめイナヂ
らイナヂドイナヂたイナヂらイナヂりイナヂあイナヂをイナヂさイナヂくイナヂてイナヂ
難イナヂ波イナヂそイナヂりイナヂよイナヂんイナヂがイナヂまイナヂはイナヂ、
とイナヂあイナヂてイナヂ、くイナヂくイナヂくイナヂひイナヂりイナヂきイナヂ、

○葛布今者物語三卷 卅三 五武峰増
賀上人謹に云 撰キ 敬セト云 被撰敬

又泥障一懸求テ持来ト云一即テ求
テ持来又其レテ 諸ヒテ 聖人ノ 頸ニ懸コト
云ハ云フニ 隨テ 頸ニ 打懸ケツ 聖人糸苦
氣ナル 念ジテ 左右ノ 脇ヲ 指延ベテ
右泥障ヲ 纏テ 舞フ
ト云テ 二三度 許シテ 此レ 取テ 云ハバ
取リ 云ケツ 龍門ノ 聖人 此ハ 何ニ 比テ 給フソ
恐レ 間ハ 答云ク 若シ 時隣ノ 房ニ

葉の同書廿八卷諸尾張守上節所詔子此五

小法師等、多有^テ咲^ヒ喰^シリ^シ臨^ミ見^バシ^カ、
一人、小法師、淫^リ障^ヲ頸^ニ懸^テ、
胡蝶^トトゾ^ク人^ハ云^ヘト、古^ノ淫^障ヲ^纏、
テゾ^ク舞^フ、
ト歌^テ舞^シテ、好^トシ^シ思^ガシ^シ年^ヲ来^ハ志^シリ^ツ、
只^レ今^レ被^シ思^出出^バ見^ル、其^レ遂^ムト^思テ、^カシ^レテ^ツ也、
云^シ、

節所咲^ヒ公^ノ殿^ト人^ノ遊^ノ謀^ハ極^ハ有^リト
有^ル教^ト上^人此^ノ上^節所^ラ恐^トサ^ム皆^レ紐^シ
解^テ禪^表衣^ヲ脱^下テ、上^節所^ノ前^ニ
立^並テ、歌^ヲ作^テ歌^ハム^為ル^也其^レ作^ル
様^ハ、
鬘^負ダ^ラハ^アム^カセ^バコ^ソム^カセ^バコ^ソ、
鬘^負タ^ラト^云ハ^カリ^ト守^ル主^ノ毛^ヲ清^ク鬘^負、
ト鬘^負タ^ラト^云ハ^カリ^ト守^ル主^ノ毛^ヲ清^ク鬘^負、

此ル 鬢ダラシク 上野所ニ 若キ 女房ノ
中ニ 交リ 宿タル 歌ル也云々

○古事談ニ 卷 僧行 上惠心僧都 金峰

山ニ 正シキ 巫女有ト 同テ 只一人 合向 宿テ
心ニ 之所 願ウラ 夫ト アリケシバ 哥占ニ

十 万 億 ノ 因 ニ ハ 海 山 隔 テ 遠 ドシ
道 ダ ニ ナ オ ケ レ バ ヲ ト ヲ テ イ マ ル ト コ ソ キ ケ

ト 台 タ リ ケ シ バ 濟 江 ニ ラ 帰 結 云々

○又書の上人可奉見生身普賢之由祈請

依有夢の若云欲奉見生身普賢者

可神崎遊女之長者云云仍尔悦行向

神崎相親長者之衆只今自京上日

之輩群来遊宴乱舞之間也長者

居極座執鼓彈拍子之上句其詞云

同防の口ツミノ中ナルニウ井ニ風ハカ

みトモサバウナヒタツ

云云其時聖人成奇異之思眠而合掌
之時伴長者應現普賢之貌年六
牙白象出眉間之光照通俗之人以
微妙之音聲一講曰

實相在滿之大海也塵六欲之風
不吹也隨緣真如之波又又トキナシ

ト云云其時聖人信仰恭敬シテ持感
淚開目之時又如元為女人之白

彈

防室積信閉眼之時又現菩薩形演
法文如此教之度敬礼之後聖人亦涕泣
退席于時伴長者俄起塵自閉道
追來聖人之許示云不可及口外ト謂
即逝去于時異香滿室云々長者俄頓
滅之間遊寧離興云々

○同書上卷 神和併 二八情臨時 孝後云々

部大輔惟盛

イトヨリカケルシガリ柳

ト云今縁ヲサマフトス

〇續古事談一卷 三通后 二少乃資賢

井の世あふかくそのの文

とらふ今柳とこころよき

~~あまののこころよき~~
~~あまののこころよき~~
~~あまののこころよき~~

〇宝物集七卷 廿七 神崎遊女事あま又

神崎遊女ト云ハ年比色ヲ好^イい佛法ノ

名字ヲ知ズ舟内浪上ニシテ世ヲ渡リ

往還ノ密^ニニ身ヲ任セテ過ス男^トト具シテ

西目^ノ下リ^イ程^ニ海賊ニ値テ教^ヲ多^ク所

切ラレテヒキ入ラントシケル時西方^ニカキ向

ラシテ

弁^ノ影^ハ解^シシ老^ニケム思^ハバ^イト^クノ哀

ナシ今^ハ西方^ヲ極^メ影^ノ浮^ル陀^ノ擲^ラ念^ス

ズベシ

ト云歌ヲ度ビ歌テ只弱リニ弱リテ絶入ニ
ケリ西方ヨリホノカニ彩音聞エテ海上ニ
此字雲雲中ニ往生シケリト云リ云々

○撰身抄ニ卷卷性空上人書シケルニ

少人少人ニ法法尋尋どくじゆの功功子子もも肉

身身ノノままののありあり根根清清淨淨のの功功徳徳をを修修

ふふりりとと正正身身のの普普賢賢善善薩薩のの尊尊像像

をを修修みみももぬぬるる根根の中の中ののええみみ子子修修

とと七七日日祈祈念念ししてていいままをを修修むむははららまま七七日日のの曉曉

ののううつつとと天天音音鏡鏡ししてていいままくく室室のの遊遊女女の

長長者者もも修修みみぬぬるる満満のの普普賢賢なりなりと

おおんんににせせななりりぬぬああららままとといいふふ修修むむてていい

そそののままままままいいりり修修むむななんんとといいふふ思思衣衣をを

はは修修むむるるといいふふももああららままとといいふふななんんとと

いいふふ小小社社もも思思修修むむひひててああららままとといいふふ

俗士人がいへ、皇の長者がいのりのまじり
つ子孫にて家もとり孫あよせむし
あらえ、酌とり上人酒もりのなほり
まじりてとを、年まぢよ

同防の、まじり、し、の、ほきし、の、

かぶつとせ

とわぎあふふ、むびあ、う遊女も、おぢ
こえ、う、

やぶと波くら、ヤレカトツト、

とけや、けり、やぶと、ま、ま、の、音、賢、ま

そと、う、の、孫、り、目、も、あ、ま、い、ん、を、と、ご、あ、え

親念、の、ま、ま、の、時、は、端、嚴、柔、和、の、生

身、の、音、賢、の、象、が、新、孫、り、て

法、性、を、満、の、大、海、う、音、賢、恒、順、の

月、の、ま、り、は、ご、あ、ぢ、よ

と、い、は、ま、り、あ、う、又、目、を、あ、ま、り、つ、ん、か、よ

又路へい遊女の老翁なり。うい子^こ聲しき
は波うらとりふなり。又田もあまぎんは
は界^かりよんまをいせ者又の身の普賢を
わしとけしと人たあうたのしとあえ
はあもやしとあまよはとよ一町をわし
もえたけせ者あはるる才をわしとあ
ゐせ者遊女とて年をかかりしとあ
誰のうきとあ^あ身の普賢とあ思ひゆり

たあづるのあ女とあ思ひゆりはあ
あよあああつとああけまはあ
げあくかああけあああああ
あはあああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ

○十訓抄二卷 時可離情慢事
部子資賢に配所ありあり
ふりけるあり法皇今標をり
あるもさしけるよ

信濃子ありー本當海

とらふにせけり、所感をけり、

信濃子ありなる

とらふにせけり、所感をけり、

信濃子ありなる

○同書三卷 不悔人倫事、書写の

性空上人、生身の普賢をもさす

寤寐子祈請、かたはるよ、或夜轉經子

はつとて信をもさす、がけ、脇息子あり

りん、まげ、まゐり、さるよ、生身の普賢

をさす、とんと思、に、那崎の遊女の長者も

る、す、い、や、ま、あ、あ、奇賢の思、こ、も

なりんかーら一り向らへ長者が家におり
つすもむとび今京より七日の輩下て遊
宴乱舞の程に長者と一も居て飲も
あてに拍子の次第もとるその詞もよく
同防むらけあ中なるみと井も風い
吹ぬもさら波らう

と上人因所へ信仰恭敬して権目し
はるんぶちりみるまてけけの急る音願井

の形と現と六才の白象の乗る肩間の
光りを放ちて左佐貴殿をとり印
微妙の音声はしる

寶相を満の大海に上座六欲の風
わらぬと随縁真如の流のいぬめ

や

と感涙あきへうくして眼もひさき見ま
みるる如く女人の姿と成り同防むらつ

の詩をもとに眼をとる時に又井のか、
ちと現下へ法門を漸くまよがくのこ
うびく敬礼とてたゞ一階へまよがくの長
者倭よ名を立用をさうら人の詩へ
斗うんけりしにわし不可及とてん即
倭よ死に異香空よみちる懸香とて
若の斬滅の同遊宴の興とて遊遊に
ころりかぶりちりしとてん悲涙のあはれ

帰路にまよがくとてん

○同書上巻 可憐義才純事部成通

今身曲り勝もいふうけしゆのよあや
ぶちをちんてくちりてさるす駿者も
おとけりまよがくとてんあはれ
いふけるも見え居るも今様あはれさ
あちいねんとやけるまよがくとてんあ
但あちいねんをこがりうらまをいふあ

けしきよし年ふくくゆる身たまきふ暮うくそ
死ふも後世のうくくゆる身たまきふ暮うくそ
いほむせりばとそ

薬師ヤシのたの誓願セイガンの氣病キビヤク兼ニ除シヨクぞ
たの誓願セイガン其身ミはさへあきつ皆カヘ長ナガ
浦足ウラタ疑ウタガは

と七及ナナたあううういあうういあうういあううい
涙ナミをシ留トうかかめぞいそ人をあやしむ

あういあういあういあういあういあういあういあうい
あういあういあういあういあういあういあういあうい
あういあういあういあういあういあういあういあうい

○又サニ同部ドウブの神カミ崎サキの君キミねらう思オモひ侍サマひ
て筑ツク紫ムラサキくしりけるが海ウミ郷キョウにあひそあうい
あういあういあういあういあういあういあういあうい

あういあういあういあういあういあういあういあうい
あういあういあういあういあういあういあういあうい
あういあういあういあういあういあういあういあうい

誓を念びし

と後こころ引入り、其時西方の樂
の声すえてあめしき雲、形なきけしきなる
ゆゑ志みよけりまじき世も今初をいひて
往生をもとげし解脫は何をもえん
ふゆのむく方子せん信をぬみよりまき
りや云い

~~一、古事記、今昔物語、~~

○體源抄二本卷に唐人三疊云々此樂相

撰節のアラ、ギト云母ノアリ云々レドモ

近來ハ舞絶畢云々古記云舞出、自

樂屋前、其長長短、漸進、是上時、是

長、隨テ長シ、承州門、懸、舞畢、入

所、如本、漸減云々、幼主之時、被、停止畢、

子、御者見、一、依院、御記、作者、不見之、其

舞名、阿、食、分、木、古、房、解、云々、有、記、評、云々

アラ、ギノス丑ニナサリ、コトシバガリ、風
ナフカセシ、
安良、^{アラ}木ヲゲバカテ、^ギハナサ久^キ日^ヒキテ、^テ夕
レバ、^コ口カウバシ、

按此詞与標^{カモ}聲^シ一^ニハ^シ姑^ク此^コ

○同書十末卷神歌事あり、或云侍従
大納言 成通 雲林院ニテ鞠ヲケラシケルコ

○大内裏考證三之中卷會昌門の
壇の事、古苗及南部所行苗神
泉苑所行苗、泉北面並四壇、東西
九丈三尺、○北山折^即末^位、^同會昌門
左右、^{左右}折壇、^{左右}和犬像、^{左右}並之、○
江次第^即外弁^云卿以下、^列立
左方、^入會昌門^片麻^就標^伴佐
伯并^諸仗及内舍人^兵起、^註同西
氏降壇北面而之、○秋葉記只久

嘉二年十一月二十六日、會昌門内東
西掖壇上、左右各有房、上各居銅
和犬形一頭、東西面、東和犬下
有銅雀具、作如磐
石、前一尺在銅、西和犬下、有清、石敷、左
步、房、式、云、居、先、像、於、會、昌、門、左、之、
西、而、其、作、和、犬、也、代、記、亦、如、此、同
門西掖壇上、各做之、房、胡、亦、一
脚、為、伴、佐、伯、用、門、前、皆、有、幔、
南、方、三、丈、不、懸、自、餘、會昌門外、衛、
可、張、之、而、今、日、不、懸、也、

雨ニハカエフリク、リテレバシガクシノニニイリテ
階ニシリラカケテ、シバシニシラ、階、レ、ケ、ル、ホ、ド
三

雨フレバ、軒ノ玉水ツキ、トクハ、ヤモノラ
ニユクマデ

ト云、神歌、ハ、ズ、サ、ニ、ケ、ル、程、ニ、櫛子、内
ヨリ、オシ、ア、ケ、テ、女、房、ノ、聲、ニ、テ、此程、ニ、候
人、ノ、モ、ノ、ケ、ノ、ラ、ヒ、テ、候、ガ、唯、今、ノ、即、聲、

兼ニアリビシテ乳色^{ケシキ}カハリテ見エ候ニ今
サシ候ナシヤトスニクシハ^{ツツ}又ギテ堂ノ内
ニ入テキチヤウノ外ニ井テ
イヅレノ侍人^シ歎ヨリモ千手ノチカヒゾクノ
モシキカシムル早木^モニクニ花サキ
ミナルトキ、夕しバ

トイフ句ヲトリカヘシクワシテ又
學師ノナニテ^イ誓^イ願^イハ^イ象^イ病^イ悉^イ除^イゾク

ノモシキ一徑^イ其^イ身^イハ^イサテカキツ^イ皆^イ令^イ
滿^イ足^イス^イグシ^イク

コレヲカタハシタリケルニモノ、ケワタリテヤウク
ノ事ドモイヒテ且病ヤシタリ、必ズ法験ナ
ラ子ドモ道々長セル人ノ誓ニハ、害病モオシ
クナスニラソニ

○又音曲事^イ多^イ教^イ訓^イ折^イニ^イ云^イ所^イノ^イ器^イヒ^イ又
別^イ先^イ三^イツ^イノ^イ法^イ文^イノ^イ哥^イ、今^イ様^イ片^イ下^イ早^イ長^イト^イカシ

ワシモノイトカクシトアリノ第一ニ今様ハソリツ
キヲクベシ春ハ春ニツケ夏ハ夏ニツケ秋冬
モ同之月ノ比ヤシノコシヲ歌ヒ祝ニ常ノ
事ヲ歌ヒ夏冬ノ事ヲウタフハアルニシキ事
也又女房ナドノ前ニツビニサケアルトフロ
ス

蓬萊山

ナンドウクフハフルナカシ此寺ハ事ヒモノニカギ

ラズ樂人モ同事也白河院ノ御時ニサレテ
事ツカフツリケルコトイガシテ云

海道ノクダシバ波モシ山道トオモハスグ
シテ山キビシシテ北陸道ハ雪タカム
ナルモノヲヤイガハ伊勢路ニカカリナム
此事ツウタフアヒガハテノ句出サントスルニ事
トメテ召シテ所定ニツクノ次ノ句
イガヌ都ニツクリ居タラム

トウタヘト仰下サル^{サレ} 扱具ヨリ^{ツク} 其定ニツク^{ツク}
リタリケルニ^ニ 脚心^{ココロ} アヒカサヒテ^テ 感じ^カ オオシ
メストテ^テ 寝頭^{ネカ} 給リ^ル 又同院ノ^ニ 所^ト 時^ト 哥
近^ニ 降^ル ト云モ^ト 脚前^ノ ニ^ニ サレテ^テ 哥^ノ ウタ^ヲ ノ^ノ 七^ツ 後
ケル^ニ 思^フ ヤウ^ノ ア^ニ した^ル 哥^ノ ノ^ノ ウタ^ヲ ン^ト 思^フ 天^ノ 出
シテ云

太子ノ^ノ 身^ノ 扱^ヒ ン^ニ 集^ル 衣^ヲ ハ^ニ 掛^テ テ^キ
竹ノ^ノ 葉^ノ 簾^ノ 節^ノ ノ^ノ 山^ノ ラ^ニ 出^シ ヲ^リ 背^ハ

アレドモ、ヌレモ元シ

此^ノ 哥^ヲ 出^シ ヲ^リ ケル^ニ 一^ノ 首^ヲ 後^ラ ヲ^リ サ^キ ニ^追
出^シ サ^レ シ^ケ リ[、] ラ^リ ニ^送 へ^キ 口^ト 也[、] 云^フ じ^ノ じ^ノ キ
津^ノ ア^ニ ヲ^リ 哥^ヲ ヲ^リ 女^ノ 一^ノ 人^ノ 合^シ テ[、] 月^ノ ノ^ノ ア^カ キ
コ^ノ 三^ノ 寺^ノ 坊^ノ 門^ノ 東^ノ 洞^ノ 院^ノ 邊^ニ ニ^ア ソ^ビ ア^ル キ
ケ^リ 鐘^ノ ソ^ノ 程^ニ ア^ル 所^ニ コ^キ 声^ヲ 三^ツ 哥^ヲ ヲ^リ フ
モ^ノ 中^リ キ[、] じ^ノ バ^ラ ク^ト 上^リ テ[、] 是^ヲ キ^ク 案^ノ ノ^ノ 如^ク
男^ヒ ト^リ ン^テ 笛^ヲ 吹^ク 二人^ノ 今^ノ 様^ノ ウ^タ フ^ル 其^ノ

哥こいハス

信濃マアンナル木曾路川、居思ヒ人、
深ケレバ、ギハニ袖ヲヌラシツ、アヲヌセラ
ツリ、ス、ギツレ

是ヲ

エモア、ミセラツソ

ト六、其女ノウミヒツリケル、又天玉奇一参リテ
江^{エツチ}口^チトゴマリテ、夜^ヤフルルホド、アソビノ所^ト

ウカゴヒケルニ、火ノモトニテ、スグロクヲ折ケリ、
押^{オシ}イリテ、今様ヲモヨホス、出^デシテイタク。

竹ノヨチガクマシ、フシモ定^サメズ、オキ居^カツ、
人^{ヒト}ニ知^チレヌ、悲^{カナ}シクモテ、ノ鳴^ナハテ、寢^ネモイ
ラズ。

此^{コノ}奇^キサセルフシモナケレドモ、折^{オリ}コリテ、血^チモアリキ、
又^{マタ}悲^{カナ}レヌフシニ、人ノ詠^{ナガ}リシナリ、折^{オリ}コルト又^{マタ}

ヨシナノ我^ワ等^ラガ、獨^{ヒトリ}寐^ネヤ、カバカリサヤキキ

冬ノ衣^{カミ}ハ薄^{カミ}クテ冬ノ衣^{カミ}ハサグシク分^{カミ}シ
人ハマテド来ス

又

心ノ内ニシノベドモ色ニハクテナリ我志^{ワカシ}ヤ
物ヤ思フト見ル人ノヤナクイカト問
ニテニ

○源平盛衰記ニ卷^{カミ}六 額^{カミ}打論^{カミ}ノ観音房
落^{カミ}キリト遊^{カミ}遊^{カミ}あり

○源平盛衰記ニ卷^{カミ}六 額^{カミ}打論^{カミ}ノ観音房
勢^{カミ}至^{カミ}房^{カミ}長^{カミ}刀^{カミ}三^{カミ}延^{カミ}曆^{カミ}奇^{カミ}額^{カミ}ラ^{カミ}二^{カミ}刀^{カミ}切^{カミ}テ
衆^{カミ}徒^{カミ}所^{カミ}存^{カミ}其^{カミ}二^{カミ}ラ^{カミ}ズ^{カミ}外^{カミ}ト^{カミ}思^{カミ}ハ^{カミ}大^{カミ}象^{カミ}ハ
落^{カミ}合^{カミ}ヤ^{カミ}カ^{カミ}ク^{カミ}ト^{カミ}詔^{カミ}テ^{カミ}馳^{カミ}廻^{カミ}ケ^{カミ}レ^{カミ}共^{カミ}落^{カミ}合^{カミ}者^{カミ}
其^{カミ}ト^{カミ}シ^{カミ}二^{カミ}人^{カミ}ノ^{カミ}者^{カミ}ハ^{カミ}中^{カミ}村^{カミ}也^{カミ}
カ^{カミ}レ^{カミ}シ^{カミ}ヤ^{カミ}水^{カミ}鳴^{カミ}ハ^{カミ}瀧^{カミ}水^{カミ}
ト^{カミ}歌^{カミ}テ^{カミ}ラ^{カミ}レ^{カミ}ク^{カミ}ト^{カミ}一^{カミ}時^{カミ}計^{カミ}舞^{カミ}ヲ^{カミ}シ^{カミ}テ^{カミ}終^{カミ}

○同書九卷^{ナセ} 康頼^ノ野詣^ノ名^ノ康頼
入道社壇^ノ御前^ニ歌^ヲウタヒテ^ハ民衆^ニ
儼^{ケリ}

白露八月ノ光^ニ黄土^ニウレホス化^{アリ}

權現舟^ニ掉^{サシ}向^ノ岸^ニヨスル波

ト未^{イダ}詔^{ウタヒ}モ^{サレ}三所^ニ權現^トナゾテ^ハ祝^ヒ

奉^ル何^モ常^キ葉^ノ樹^ノ葉^ニ冷^ク風^吹来^ル動^ス

揺^ス事^ハ良^ク久^シク^ハ通^ス符^ハ法^ニ施^ス奉^ル手^向

云^ハ通^ス符^ハ法^ニ施^ス奉^ル手^向

暁^ノ方^ニ康頼^ノ歌^ヲウタヒ^テ其^ノ終^リト^シ足^ノ柄^ヲ

歌^ハ礼^ニ奠^スコト^ハ奉^ルサテ^ハト^ド見^シク^リ

ケル^ノ夢^ノ中^ニ海^上ヲ^見渡^セバ^ハ沖^ノ方^{ヨリ}

白^ク帆^係見^ル小^舟一^般浪^ニ引^レテ^ハ滿^ルヨ^ル

中^ニ紅^ク袴^着見^ル女^房三^人舟^{ヨリ}上^リテ

鼓^ヲ脇^ニ挟^ミテ^ハ拍^子ヲ^打テ^ハ足^ノ柄^ニ歌^ヲ

合^セ歌^ヲリ^テ

諸^ノ人^ハ頼^リモ^ハ千^手ノ^誓ハ^シモ

シヤ、枯^カえ木^キ草^{クサ}毛^モ怨^{ウラ}花^ハ咲^{サキ}實^ミた^ル

トコソ聞^キク

ト三人^{ヒト}聲^{コエ}ヲ一^{ヒトツ}ニ^ニ返^{マゼ}テ^テ歌^{ウタ}ヒ^テ云^{ハク}

了^マ康^{ヤシ}頼^{タカシ}ハ^ハ活^イ中^{ナカ}無^ム双^ニノ^ノ舞^{マシ}ナ^リナ^リト^ク題^{トク}

題^{トク}鬼神^{キクワン}モ^トラ^ケテ^テ吾^ガ神^{カミ}護^ゴ法^{ホウ}モ^トテ^テ結^{ムス}

計^ケナ^クシ^テバ^バ昔^{ムカシ}今^{イマ}ノ^ノ事^{コト}思^{オモ}出^デス

カ^ニモ^ニモ^モ替^カカ^カ夫^{ソノ}落^ク涙^{ナミダ}ハ^ハ瀧^{タキ}水^{ミヅ}妙^{タマシ}法^{ホウ}

蓮^{レン}華^カ人^ニ池^ニ上^ニ成^リ弘^ク誓^セハ^ハ舟^{フネ}ニ^ニ竿^{ササ}指^{サシ}ス

沈^{シヅ}我^ガ号^{コウ}ス^ルセ^テ給^{ケル}ヘ

ト舞^{マシ}澄^{スミ}ニ^テ泣^{ナク}ケ^ルバ^バ云^{ハク}才^{サハシ}身^ミ能^ノ施^セス

法^{ホウ}施^セテ^テ孝^{コウ}ラ^シ我^ガ身^ミノ^ノ然^シハ^ハ今^{イマ}様^{サマ}コ^ソ第^{ダイ}

一^{ヒト}下^ゲ思^{オモ}付^{ツキ}ト^テ神^{カミ}祇^シ見^ミ三^{サン}ノ^ノ内^{ウチ}

併^ヒノ^ノ方^{カタ}便^{ベン}ナ^リケ^ルバ^バ神^{カミ}祇^シノ^ノ威^イ光^{クワ}ノ^ノ毛^モ

シ^シヤ^ヤ扣^クハ^ハ名^ナ響^{キョウ}アリ^リ仰^{オウ}ハ^ハ定^{テイ}テ^テ花^{ハナ}ガ^ガサ^サノ

ト三^{サン}返^{マゼ}シ^テ歌^{ウタ}ヒ^テ先^マハ^ハ證^{テイ}誠^{テイ}殿^{テン}ニ^ニ手^テ向^{ムク}

奉^{ホウ}リ^リ二^ニ度^ド三^{サン}度^ドハ^ハ齋^{サイ}早^{サキ}王^{オウ}ニ^ニ奉^{ホウ}ル^ルト^トテ^テ河^カ澄^{テイ}

シテ歌ケレバ云々

○同書十卷 中宮御三座の事あり一併

堀川彦橋三橋ヨリ東ノ爪ニ車ヲ立

サセ給テ橋白ラフ間給テ十四日計ノ

禿ナル重部ノ十二人ヨリ東一向ヲ起ケ

ルカ午ヲ扱キ同音ニ

摺ハ何摺 摺目玉摺ハ重ノ塩路ノ波ノ

寄摺

延喜式 左凡大儀之日居見
儀於會 昌門左事畢返収奉有

右

摺 女齋 洗葺子文女御即位

調度圖ト云フ書一巻アリ

或曰文女年中即位ハ云々

其書ノ終更女元年正月念

書寫子藤原光忠トアリ是

二目テ後人誤テ文女即位調

度圖上題号ラ書ルナラム
其書ノ中ニ大極殿ノ事アリ
大極殿ハ治承元年ニ焼込シ
テ後再興セシ其圖ハ治承
以前ノ古圖也夫ラ文安元
年ニ光忠ト云人供写シタ
ルベシト云、負丈曰此詭確
論也然レバ題号ノ文安ニ字
六

像を和ニイヌ犬ともし、イヌイヌガ一ノ呪
兒下字ハ正作也、イヌイヌ可書也、イヌイヌ
呪ハ異身、イヌイヌハ正イヌイヌ
一ニ正作也、イヌイヌハ正
の音字ニ出ハ呪兒イヌイヌ作也、イヌイヌ可
書、イヌイヌイヌガイヌイヌ
との義也

○和名類聚抄十卷
十四
右
毛
群
品

部上犀

雌犀附

角雅集注云犀

音西此

形似水牛猪头大腹

有三角一在頂上一在額上一

在鼻上脚有三蹄黑色本

草云雌犀一名兜犀

揚玄操曰

似兜音云

音西此間音在とあしとふも

音西之清音たると此間アヒクの俗

